

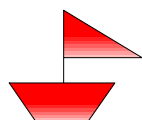


人生を歩くために、必要な発見



Ⅰ モラビト. エロディ
Ⅱ ユハット. ヤシン
Ⅲ ルヴィラン. テフェンヌ
Ⅳ カレフ. アキム
Ⅴ ビュケ. マキシム
Ⅵ 山内. 薫
Ⅶ 古屋. 憲章
コロンブス





目次

I・前書き.....	3
------------	---

II・レポート.....	
--------------	--

★ 新しい環境に順応すること.....	4
---------------------	---

カレフ・アキム

☆ 日本語と私の関係.....	12
-----------------	----

ルヴィラン・ティフエンヌ

★ 日本語と日本語の不思議.....	20
--------------------	----

モラビト.エロディ

☆ 言葉の感受性.....	28
---------------	----

ユハット・ヤシン

★ 書くの嫌.....	34
-------------	----

ビュケ・マキシム

III・後書き.....	38
--------------	----

IV・奥付.....	39
------------	----



前書き

このプロジェクトのおかげで、このグループの皆は「日本と私」について考えて、自分のテーマを選んで、自分のことをよく知るようになりました。500年前にアメリカ大陸を発見したクリストファー・コロンブスのように、皆は自分の内に特別な発見をしたので、「コロンブス」の名を選びました。

新しい環境や自分の文化や音色の力、ひと目見てそれぞれのレポートのテーマはとても違います。確かに、対話の中で似ているアイデアがあっても、テーマはまったく違います。しかし、すこし考えてみれば、共通点があります。自分についての発見です。自分のテーマについて考えて、相手と対話をして、結論を書きました。そして、皆で自分のテーマについて話したり、意見を交換したりしたとき、自分について、と同時に他人や世界についても色々な発見をして、自分の考えが広がることができました。

人生というものはいわば道みたいです。時々選択をしなければならなくて、交差点のようです。そして、この道を歩くとき、たまに困難に遭います。「どんな方向に向かえばいいですか」とか「どんな道を歩きたいですか」などで、このような困難を乗り越えるために自分をよく知ったほうがいいです。



新しい環境に順応すること

キーワード: 環境・溶け込む・変化・努力

アキム・カレフ

動機文

新しい環境への順応について考察したい。

日本は、ヨーロッパやアフリカにはない独特な環境を持つ。今まで自分が持っていた常識は全く通用しない。よって、ヨーロッパの国内で留学するのとアジア、特に島国である日本に留学するのでは、全く異なる。

しかし、国や文化が違うからといって、そこで線引きをしてしまうと何も成長できないし、得られるものは限られてしまう。そこで、私は新しい環境へできるだけ順応するために何が必要か考えた。

それは、自己分析をし具体的な目標を持つというシンプルなものだった。私にとってアフリカの文化とヨーロッパ文化の中で育った自分を考察し、限られた期間のなかで、新しい未知の環境の中に飛び込み順応すること、その中からできるだけ多くのことを吸収するためには、これらが欠かせなかった。

確かに、新しい挑戦をするためには、自分の中から新たな意気込みや新しい見方を生み出すことは必要だが、里程標がなければそれは長続きしないし、時によっては逆効果になってしまう場合がある。今まで自分が培っていたものや、長年自分の中で蓄積した経験を見つめ、その中からまた新たなものへ挑戦するための、糧を見出し、その次に何がしたいのか、自分にあった長期的な目標を発見することができる。そう考えると、新しい環境へ順応することは、全く難しいことではない。

私の場合約二十年間で、父の転勤による文字通りの環境の変化と、その父の死という家族内での環境の変化を見つめる必要があった。

文字通りの環境の変化の中では、人種差別がいつも付きまとっていた。子供は視覚でわかる違いに敏感なため、髪の色や体の大きさ、そして色の肌、すぐ小さな差別が生まれてしまう。その中でも、何とか順応しようと思い、子供なりに努力しても、また新たな環境が親の事情によって与えられた。私にとって、その環境の変化は四年周期で変わっていったため、限られた時間の中でなるべく周りと同化していくことが大切だった。新しい環境に入る時、すぐ周りの人と友達になり前の環境と新しい環境の違いを見つけ、その違いを自分の中で消化しようと努めた。例えば、良かったのか悪かったのかわからないが、自分の生き方を新しい友達のグループに合わせることも時としては、必要だった。さらにその中で、本当の友達を見つけることは難しかったし、その友達との別れも私には辛い経験だったが、この経験がうまく感情をコントロールする訓練になったと自負している。この変化が、何年も繰り返されていくと、知らず知らずのうちに要領がわかってくるので、やっと環境の変化の中でも、うまく自分の個性を出しながら生活ができるようになってきたと思っていた。



しかし、次に家族の中で変化が起こった。高校生のとき、父が亡くなった。父の仕事で家族が振り回されていたので、その父の死は私にとって大きな影響と変化をもたらした。母と二人の生活の中で、今度は自分が家族の中でどんな存在にならなければならないのか、どんな男になりたいのか、早く大人になるためには何ができるか、毎日考えなければならない生活が続いた。

この私の受けた二つの経験によって、得たものや失ったものがあるが、その環境のなかでアイデンティティを形成することを考えると、日本への留学は私にとって言葉の壁以外の意味で、それほど乗り越えられないものではなかった。



対話報告

A：僕が智穂と対話したかったのは、私は日本に留学して、智穂は今フランスに留学しているでしょう？同じシチュエーションで、しかも、フランスだけじゃなくて海外での生活も知っているから。智穂は日本で日本語教師していたから、アジアの比較そして、外国人が日本でどんな生活をしているか、もう知っているから、智穂と話したいと思ったんだ。

C：ありがとう。

(新しい環境)

A：ところで、智穂に、事前に僕の新しい環境の適用についての意見を言ったけど、智穂のナショナルリティについてどう思う？

C：そうだね。私は、日本人で日本で生活しているときにあまり、アキムと比べたら人種差別に出くわす機会は少なかったよ。でも、日本から出て新しい環境に入ると、自分のアイデンティティが、再認識させられると思うよ。

A：それってどういうこと？

C：例えば、今フランスだと、智穂という人間はだれ？というより、日本人の智穂という意識を友達が持っているから、周りの反応から自分のナショナルティについて考えさせられるよ。アキムも、日本にいたとき、フランス人のアキムさんだったでしょう？

A：そうそう わかる。自分も日本にいたときは、フランス人のアキムとして見られていた。

C：そうなんだよね。私も、マレーシアにいたとき現地の人たちと何かワークショップをするとき、本当に一人の人間として、一緒に活動したかったけど、周りは日本人だから智穂には理解できないよ って言われたりしたから、ちょっと難しかったよ。

A：あーそうなんだ。日本人は、よく働く人種とかソニーとかトヨタとか、会社の名前が出てくるのが一般的だね。

C：じゃあ、アキムはフランス人だから、どういうイメージをもたれていたの？

A：アニメだね。すごく残念。

C：マジョリティが持つ、その国のイメージって本当に、人々の頭の中に根深く残ってるよね。

だから、新しい環境の適用は本当に難しいと思う。

コメント

自分のアイデンティティをまだ形成していなければ、新しい環境に順応することがとても大変だ。なぜなら、新しい環境に入ったら自分のアイデンティティが再認識させられるからである。マジョリティが持っている偏見は人々の頭の中に根深く残っている所以新しい環境に順応するのはだいぶ難しい。私の場合、他の人より何倍も努力して、偏見を少しずつ消すことができるようになった。しかし、結構時間がかかるので諦めやすいと思う。諦めないように忍耐力は大切だ。



(新しい環境に順応するために)

A：智徳は新しい環境に順応するために何が必要だと思う？

C：私は、時間や順応する体力や、妥協や許容が必要だと思う。自分の持つフィルターで、新しい文化を見ないことが大切だと思います。新しい環境に100%順応することは、一生かかるかもしれないしもしかすると、順応できないかもしれない。でも、それに近づくことは出来る。

A：そうそう。僕もそう思う。でもそれを、強く感じた時はどんなときだったの？

C：アジアは発展途上国と開発国あるでしょう？私が、マレーシアのボルネオ島のイヴァン族の村に行ったとき、日本とは180℃ちがった世界があったんだ。私がそこに行きたかったのはそれが理由なんだけどね。

A：へーそうなんだ。

C：でも、周りのマレーシアの友達、私が日本から来たというだけでお高くとまっているイメージがあった。

A：スノブなかんじだよ。

C：だから、ちょっと勘違いしてるところも自分にはあったんだ。みんな、日本人はすごいっているから、自分もちょっと特別な存在に思えてきたときがあった。でも、途中からそれじゃ、その環境に順応できないと思ったんだ。

A：そのことじゃないけど、ワールドカップのときに僕もフランス人の国民性が出たと思う。ついつい、オリンピックのときとかついつい自分の国を応援してしまうよね。

C：そうだよね。だから、外国についてはじめて、日本人としてのプライドを強く感じたんだ。彼らが持っている機械、カメラやパソコンはすべてMADE IN JAPANから彼らの目には私は、日本人のちほとしてしか見えてみなかった。だから本当に仲良くなれるのは、時間がかかった。どうしても、優劣を感じないようにするために、譲ることとかそれを許すことが大切だと思う。そこで、日本ではこう考えると、日本のやり方はこうだとか主張すると、全く前には進まなくなるよね。

コメント

いくら努力しても新しい環境に100%順応することができない。しかし、それに近づくことはできるので順応する体力は必要である。全然違う文化の国に行ったら180℃ちがった世界があるので精神力は大切だ。

そして、外国から自分の自国のいいところがよく分かるようになった。例えば、韓国に行った時、外にクロスのキリストがたくさんあって、奇妙な感じだった。なぜなら、フランスは106年前に政教分離だった（昔、ヨーロッパで教会は社会に大きな役割を持っていた）。そして、フランスは世俗的な国になって、公共空間で宗教的なシンボルが禁止になった。人に影響が多いかもしれないのでフランスのほうがいいと思った。



(新しい環境に順応することへの恐怖はあった)

A：違う環境は怖かったか？ 行く前とその現地に着いたときでは、カルチャーショックはあった？ また、思っていた以上に文化間のギャップはあった？

C：すごい怖かった。例えば、イヴァン族はもともと首狩族でまた仲間になるためにとても時間がかかるので、限られた時間のなかでどれだけ、彼らからいろいろな文化を習得できるか不安だった。村に入るとき豚を殺さなければいけないんだけど、その豚は彼らにとって財産、だったから、豚を知らない人に渡すことは彼らにとって、最高のもてなしだった。でも私はその豚を殺すことができなかったんだ。生き物を殺すことは自分にとってなれていなかったし、目の前である物体が生から死に行く姿を見るのは、初めてに近い経験だったので、もてなししてくれるのは、すごくうれしかったけど、それを受け取ることができない申し訳なさと、自分がその壁を越えることができなかった自分に腹立たしさを感じた。

A：その恐怖に対して、前からそういうことが起きるって準備はしていたの？

C：日本で事前に、まず、一年間イヴァン族について日本で知ることができる資料を集めて、なおかつイヴァン語を勉強して、村へ入るとき豚を殺さなければならぬことは知ってたけど、いざ、目の前でその文化間のギャップを見ると、足がすくんだよ。

A：そのギャップを感じるということに対して、智穂はすでに心の準備はあったってことだね。

C：頭では準備していたけど、心が準備していなかった。理解はしていたけど、体がついていかなかったってかんじかな。

コメント

やはり、最初に誰でも新しい環境に入ったら怖いことがある。その怖いことは、壁のようであり、一つ一つ破壊しなければならないとよく感じていた。もし、破壊できないと順応することが全然できないという意味である。

新しい環境へ行く前には、準備がとても必要だ。そこで頭だけではなく、心の準備が大切だと思う。Cのように頭だけの準備をしたら今度の壁を登ることができない。

(アイデンティティーの形成と自信)

A：智穂は、そのマレーシアの経験と今フランスでの経験で、文字通りの環境の変化で何か自分のアイデンティティーの形成において変化はあった？

C：やっぱり、外国で生活することは、その国でマイノリティーになるってことだから、その国の法律もそんなにフランス人と同じく知ってるわけじゃないし、厳しい環境におかれてるって感じだね。

A：智穂は、アイデンティティーを形成するために辛い経験が必要と思う？

C：んーそうだね。辛い経験は自分から好きでするわけではないけど、厳しい状況へ飛び込むことが大切だと思う。

A：なんで？

C：だって、辛い経験は人によって違うでしょう。だってある人は恵まれている家庭のなかで生活している人もいるけど、みんながそうじゃないでしょ？ 運命じゃないけど、人それぞれ、自分を厳しい環境におくこと、また他の人から強制的に置かれても自分からその場所に身をおいても、その状況から逃げないことが大切だと思う。だから、フランスに来て、本当に毎日活動してる。



A：そうだね。私も、日本に住んでたときが一番頑張っていたから生きていたって感じがしたよ。

日本で留学した後と、前では自分にちょっと自信がついたと思う。僕は、自信があることは自分のアイデンティティーの形成につながると思うよ。でも、日本で生活していたとき、あまり日本人は自信がないように見えたよ。

C：どうして？

A：日本人は自分の気持ちを、あまりはっきり言わない国民性があると思ったよ。

C：たしかに、日本人はあまり思ったことを人前で言う機会に慣れていないと思うよ。だから、今私はフランスで智穂の意見はどう思うのって言われたとき、難しさを感じているんだけどね。アキムが日本に生活していたとき、この特徴をはっきり感じた時ってどんなときだったの？

A：例えば、僕は日本にいたとき、ファッション関係の仕事をしていたんだけど、例えばチーフから、何かこれやってあれやってとか、何か頼まれたとき、僕はうまく出来なくて何度も失敗をしたんだ。だから、チーフも同じことを何度も説明してたんだけど、最後のほうになるとちょっとチーフはいらいらしていて、でも仕事が終わると今日はよくがんばっていたねとか、すごく良いことばかり言って、チーフがイライラしていることは僕に直接言わなかったんだ。

C：なるほどね。日本人は世間体や他の人の評価を気にするから、そこで自分はこう思うって言うと、角が立って摩擦が起きるから、中立的な立場をとってあまり言わないほうが、身の守りって思っているところがあるかもね。

A：そうだね。今日は、ありがとう。自分のことを考えること、なんで自分がいまここにいるのか、どうして存在するのかとか考えるのは、生きてるって感じがするよね。今日は来てくれてありがとう。

C：私も、自己分析になったり、アイデンティティーを考える機会になってよかったよ。すごく、考え方が深くなったよ。こちらこそ、ありがとう。

コメント

新しい環境に順応するために、二つの準備が必要だ。最初に頭でその新しい環境について見つけた情報と違いを吸収しなければならない。そして、心で自分のいいところと悪いところもう一度確認したほうがいいと思う。なぜなら、新しい環境に入ったら自分のアイデンティティが再認識させられるので自己分析したほうがいいと思っている。

新しい環境へ順応するのは随分難しいことだ。一方、新しい環境で、おもしろいことにチャレンジすることが多いから無気力では、順応できないと思う。

対話を通して、もう一回辛い経験を考えて、新しい答えが出てきた。辛い経験をしているのがアイデンティティーの形成の要因だと考えたことがなかった。やはり、私も辛い経験から（引越*差別*父の死）アイデンティティーを形成することができた。つらい経験はいずれ必ずプラスに心を変えらると思う。強さはある程度辛い経験をしないと身につかないのではないのでしょうか。



結論

一般的に新しい環境へ順応するのは随分難しいことだ. そのままで新しい環境に行ったら順応できない人が多いかもしれない. 環境が変わったら, それに慣れるように準備をするのは大切だ. 私は、新しい環境へ順応するときに3点が大切だと思う.

まず頭に飛び込んできたのは新しい環境に入るとき、すぐ周りの人と友達になり前の環境と新しい環境の違いを見つけなければならない. その違いを消化すれば、自分の生き方を新しい環境に合わせることができると思う. そして、違いだけではなく、前の環境と今順応している環境の共通点を見つけることが大切だ. 例えば、私は歴史の授業のなかで、日本の歴史を学ぶ機会があった. 日本人は、儒教の影響からヨーロッパの人と比べ老人に対して礼儀正しい国民だと書かれてある. その文化に私は、親しみを感じた. なぜなら、父のアフリカの文化の中にも、老人を尊敬しなければならない文化があったからだ. 例えば、父のアフリカの文化の中では、若い人の死より年長の人の死の方が尊ばれる. なぜなら、年長者は様々な人生経験を持っているため、周りの人はその人が培ってきた経験に尊敬をしている. この点で、日本とアフリカの文化に共通点があると思った. 違いと共通点を見つけたら、どれぐらい精神的な強さが必要かということが分るようになるそう. 違いと共通点を探す時、謙虚な姿勢で人から学ぶべきだ. 現代には違いと共通点を知るために便利な手段がある. インターネットのおかげでいろいろな情報を探ことができ、他の人の経験や意見を読むこともできる. そして、環境に入った後もう一度その違いを観測し、まだ自分のやり方を押し通すのではなく指導してくれる人に従ったほうが良いと強く感じた.

次に、具体的な目的や目標を持つことが必要である. それを何のためにするのかははっきりしている場合は新しい環境に順応することはやさしくなる. 人生を船に例えると、この船を操縦するために行きたい場所を決め、地図を見ながら目的地点まで到着を目指す. そのような人生で目標を決め、手段を決め、達成するまでには度胸が必要だ.

最後に辛い経験をすると精神的に強くなる. 辛い経験をしているときは、それは自分の精神的な免疫力を高める絶好の機会なのだと気がつく. 例えば、高い山を乗り越えるときには、それだけの度胸と体力が必要のように、辛い経験を乗り越えるためにも、それなりの免疫力と強さが必要なことだ. 辛い経験とは、精神的に強くなれる絶好の機会なので逃げずに、飛びついて行こう.



終わりに

最初に「考えるための日本語」のプログラムが始まった時、3ヶ月はちょっと長いと思った。私は子供のころから、自分のことをよく考えているのですぐに説明をするのは簡単だと思った。しかし、いろいろな人とやりとりして、時の経つのは早かった。それで、他人と話をする際には、相手がどのような立場で、どのような考えを持っているのかを理解できれば話も弾む。実際のところ、3ヶ月は非常に短かった。意見や考えを話し合えて、とても充実した時間をすごせたように感じている。

私は自分の気持ちや自分のプライベートなことを話すのが本当にきらいだ。しかし、私のテーマを説明するために自分のプライベートなことを話すのが必要だった。最初にこのプログラムに参加したとき、今まで誰かに自分のことを深く話したことがなかった。そういうことが苦手なので私の話を皆にどう説明したらいいか悩んでいた。でも皆と距離が近くなっていったからその問題はなくなった皆は、興味を持って新世界に会ったように私の話を聞いてくれた。そのおかげで、私の話に自信ができ、思い切り話せたと思う。

このプログラムのおかげで自分の視野を広げることができ、自分のことをもっと知るようになった。



日本語と私の関係

キーワード: 音色・考え方・言語の勉強・言語と文化

ルヴィラン・ティフェンヌ

動機文

フランスには「日本の文化と日本語を勉強している」と言ったら、大多数の人たちの反応は驚きである。「どうしてこの言語を選んだか」とか「とても難しいでしょうね」とか、色々な質問を聞くが、うまく説明することがあまり出来ない。このプロジェクトの機会に「日本語と私の関係は何ですか」という質問に考えたいと思った。

一年生の時に私は日本語はただの道具だと思った。日本語のおかげで少しずつ日本の映画とドラマと番組がわかるようになったかった。私は直接に日本の文化に近づけたかったから、日本語を勉強したかった。だから、日本の文化は私と日本の関係の発端と思った。

でもよく考えれば、私の日本の興味は日本語の音色の上に基礎を置く。日本語は面白くてきれいな言語だと思って、日本語の音色が好きである。最初に日本語を聞いたのは「天空のエスカフローネ」というアニメのオープニングであった。十二歳ぐらいであった。その後、色々なアニメのオープニングを聞いた。そして、いつのまにか日本の番組や日本の映画などを見るようになって、日本の音楽も聞き始めた。字幕と翻訳を使ったが、日本語を本当に分かるようになったかったから、大学で日本語の勉強を始めた。

しかしどうして音色が好きであるか。これは本当の質問だと思う。日本語が甘い言語だからと思う。もちろん日本人は声を荒らげることが出来るが、大体静かな話には甘い言語だと思う。たぶん日本人にとってこれは風変わりなアイディアであるけれど、フランス語と日本語を比較するは必要である。先生とフランスに勉強している日本人の友達のおかげで、この比較が出来た。もし同じ人はフランス語で文を話して、日本語でこの文を話したら、声の音色が変わる。日本語で声の音色はフランス語でより甘いだと感じる。しかし、日本語は甘い言語だけではない。もしだれかは日本語でいらいすれば、これはフランス語でより恐ろしいと思う。言い換えれば、日本語でもっと強く感情が表現すると思う。

二年生の後で、私と日本語の関係が変わった。もうただの道具ではなかった。日本語が言語として大好きになったと思う。まずは言語の豊富さが好きである。言語レベルや敬語や女と男の言葉など、色々な言い方があって、微妙な意味の違いがたくさんある。そのせいで日本語の勉強は本当に難しいけれど、それはとても面白いと思う。

擬音語と擬態語があることが特に好きである。この擬音語と擬態語のおかげで、日本語は比喩に富んだ言語である。例えば、「風船がふわふわと飛んでいた」や「こつこつとドアをたたく」などは面白くてきれいな言い方だと思う。

そして、実は今まで日本語のおかげで色々なことに気がついた。例えば、文化と言語は互いに密接な関係がある。私の母国語なので、フランス語はこのことに気が付かせなかった。もちろん英語は外国語であるが、子供の時から勉強しているので、この言語も気が付かせなかった。

そのうえ、新しい考え方と出会ったと言えるかもしれない。言い換えれば、言語の作り方は考え方しだいだと思う。母国語だけが話せる場合はこれに気づくことができないかもしれないが、他の言語を勉強している場合は気づけると思う。



フランス語で話す時に考えることは必要ではないが、他の言語で話したい場合は精神を集中しなければならない。もし考え方はちょっとだけ違ったら、あまり難しくないが、もし考え方はよく違ったら、よく精神を集中しなければならない。

外国語がうまく話せるために、外国の考え方を勉強するのは必要だと思う。そうすれば、考え方を分かれば、外国語の構成が分かると思う。そうすると、他の考え方と出会えて、成長できる。日本語のおかげでこれに気づいた。



対話報告

対話相手を選んだ理由

対話の相手はリアルにフランス語を勉強しているのエリナさんである。去年の八月にフランスに来た。その前に、愛知大学で二年間にフランス語を勉強していた。エリナさんを選ぶ理由はエリナさんは私と同じ外国語と外国の文化を勉強しているのである。

対話

どうして外国語を勉強したかったですか。

T: 日本語と私の関係について考えた時に、始めにどうして日本語を勉強したいになったんだろうかと思った。日本語はきれいな言語と思ったので、文化に興味があるになった。そして、日本の文化とよく近づくになるために日本語の勉強を始めた。

E: 私にとって、ちょっと違う。子供の時に、英語を勉強していた。これは十分だったと思ったので、大学で他の言語を勉強したかった。フランス語を勉強することに決めた。

T: しかし、他の言語を選ぶ可能性があったでしょう。

E: はい、そうだ。愛知大学にはドイツ語と中国語と英語とスペイン語とフランス語があるが、私にとって、その中で一番きれいな言語はフランス語だ。そのうえ、中学生の時に、一ヶ月にカナダにいった経験がある。あそこに、フランス語に興味があるになった。

T: ケベックにいったか。

E: いいえ、英語で話したが、カナダが好きなので、フランス語を選んだ。実は一年生の時に、カナダに行きたかったが、先生はカナダによくなまりがあると言ったので、結局フランスに来た。

T: そうか…私は番組とか映画とかが分かるになりたかったので日本語を勉強したかったが、エリナさんはきれいな言語だと思ったので、フランス語の勉強を始めた。

E: はい、そうなんだ。

コメント

この話題について、エリナさんの意見と私の意見は違う。私は外国語を勉強したい理由は多様だと知っていたが、始めに外国語と外国の文化の二つに興味があることは必要と思った。でも、エリナさんはフランスに興味があまりなかったのに、フランス語の勉強を始めた。しかし、フランス語の場合は少し特別かもしれない。フランスにだけ使われることではなくて、カナダとベルギーにも使われる。私はフランス人なので、フランス語の一つの文化はフランスの文化だけだと思ったが、間違った。よく考えれば、これは当然だ。フランス語の文化について、カナダの文化もベルギーの文化もある。



音色

T: 始めに、アニメのオープニングを聞きながら、日本語はきれいな言語と思った。音色が好きだった。エリナさんにとって、フランス語はきれいな言語と思うの意味は音色が好きなのか。

E: はい、音色が好きなんだ。例えば、ドイツ語は硬すぎると思う。

T: はい、私もそう思う。

E: フランスには知らないけど、日本にはフランス語は女性的で、ドイツ語は男性的だと言う。

T: うん、この感じが分かる。私はドイツ語が好きだけど、確かに硬い言語だ。私にとって、フランス語はきれいな言語のことにぜんぜん気づかない。たぶん私の母国語だからでしょう。しかし、ドイツ語と日本語を比較すれば、やはり日本語はもっときれいだと思う。日本語は歌うような言語だと思う。

E: 私はリエゾンが大好きだ。リエゾンのおかげで、フランス語はきれいだと思う。

T: えっと…流れるような言語だと言えるか。

E: うん！流れる。高校生の時に、フランス語を知らなかったが、愛知大学を見に行った時にフランス語が聞こえた。もちろん、何も分からなかったが、とてもきれいな言語だと思った。

T: 私と同じだ！アニメのオープニングがぜんぜん分からなかったが、日本語の音が大好きだった。でも、理由を説明するのは難しいでしょう。

E: はい。このようになんだ。

T: うん。でも、日本語はちょっと特別と思う。例えば、エリナさんを聞きながら、日本語は甘い言語だと思うけど、もし怒っている男の人を聞けば、怖いんだ。日本語は同時に甘くて、怖い言語だと思う。感情は強く表現させると思う。

E: 怒っている人はフランス語でも怖いんだ。分からないだから。

T: 日本語で、分かっても、怖いと感じる。フランス語で…時々怖くないが、日本語でいつも怖いだと思う。

E: フランス語で、大声で話している男の人はいつも怖いと思う。

コメント

ここにはエリナさんと私の意見は同じと思う。二人ともは勉強している外国語の音色が好きだ。だから、外国語に興味があるになるために、やはり音色が好きなのは必要と思う。

そして、たぶん感情を強く受けるの理由は外国語だからかもしれない。すべてを分からないので、他の兆候に注意を払うのは必要だと思う。他の兆候というのは例えばイントネーションと身ぶりことである。その兆候の助けのおかげで、外国語のすべてを分からないのに、大体の話しが分かるになれると思う。

言語として外国語が好き

T: 日本は消えたと想像してみる。私はまだ日本語が好きだ。たとえ日本と日本の文化がなくても、まだ日本語が好きだ、言語として。構文とか女と男の言葉の違いとか、日本語のいろいろな特色に興味がある。エリナさんは始めから言語としてフランス語が好きだったね。

E: はい、始めからフランス語が好きだった。

T: 私はちょっと違う。もちろん、最初には日本語はきれいな言語だと思ったけど、日本語の勉強を始めた時に、番組とかアニメとかが分かるためにただの道具だった。言語の構成に興味はぜんぜんなかった。しかし去年から、言語として日本語に興味があるになった。今、私にとって、日本語は日本の文化より面白いと感じる。



E: 私は最初に言語が好きだった。そのあと、少しずつ、文化も興味があるになった。日本とフランスはとも違うと思う。愛知大学で、フランスの文化を勉強していたが、本当のフランスの文化を知りたかった。先生の言うことは現実とちょっと違うと知っていたからだ。カナダにいった経験のおかげでそれを知っていた。

そして、本当にみたい物があつた。例えば、フランスのパリに、たくさん古い建物と歴史的建造物がある。日本には寺と神社があるが、違うと思う。

T: うん。たぶんそれはフランスにたくさん教会があると同じだけど…私は日本にいった時に…

E: フランスには文化はあちこちがあると思う。例えば、大学にも彫刻がある。日本には簡素だと思う。

T: そんな感情がちょっと分かるけど、たぶんそれは外国人だから。エリナさんは外国人なので、全部に気づく。でも、日本には簡素だと思わないんだ。私は日本にいった時には、最初の神社を見た時に、本当に小さな神社だったのに、すごくきれいだったと思った。

E: でもそれは私にとって普通なんだ！

T: うん、確かに普通だ！私は外国人の視線でこの神社を見たからだかもしれない。きっと、外国人として、ある国の住民より気づくことができると思う。

E: 今、嬉しいんだ。本当にフランスの文化に近づくことができたから。そして、フランス語の勉強を掘り下げることが出来た。意味の違いを勉強することが特に好きだ。言語は文化より面白いと思う。

T: 私も言語の特性が好きだ。

コメント

ここに、ちょっと別の話題に会話をそらしたけど、面白かった。私はフランスにも建築に注意を払うけど、それは子供の時にお母さんはいつも建築に興味をそそったからだ。でも、本当に外国人はある国の住民より気づくことができると思う。

文化と言語の関係

T: 外国語の勉強のおかげで、文化と言語は互いに密接な関係があることに気づいた。でも、説明するのは難しい。言語の勉強の間にそれに気づくが、例を引く時に、何も考えられない。しかし、敬語はいい例と思う。最近、敬語についてもう話したね。私は使い方があまり分からなかった。

E: はい、私は当然のことなので、うまく説明できなかった。

T: うん。当然のことなので、言語と文化の関係をよく表現すると思う。例えば、先輩と後輩の間に間隔がある。フランスにはこんな間隔がない。

E: はい、そうなんだ。例えば、クラスメートのゆきさんと日本語で話せば、敬語を使うけど、フランス語で話せば、“テュ”を使う。ちょっと可笑しいと思う。私にとって、フランス語の礼儀は難しい。いつか“テュ”か“ヴー”か、どちらを使うのはよく分からない。

T: うん、きっと難しい。日本語と違うね。

E: しかし、“テュ”を使うのに慣れたので、知らない人と話す時に、しばしば間違っている。

T: 私と同じだ！敬語を使わないのに慣れたので、私も知らない人と間違っている。

文化と言語の関係を表現するために、他の例があると思う。語彙場だ。例えば…「魚」の語彙場。日本語ではフランス語でより「魚」について言葉が多い。日本は釣りはとても重要なものからだね。「雨」と「風」の



語彙場もこんなことだ。例えば、「初時雨」だ。フランス語にはこんな正確な言葉がない。これは人間と自然の関係を表現するので、文化と言語の関係も表現すると思う。しかし、フランス語には例がなくて…

E: はい、とても面白いと思う！フランス語には…えっと…たぶん月の名でしょう。日本語では「一月」、「二月」、「三月」と言うけど、フランス語には特別な名があるね。ラテン語から作ったのでしょうか。

T: はい、神とか挙行とかの名から作った、ラテン語で。

E: これは昔の文化から来たでしょう。だから、たぶん文化と言語の関係を表現すると言えるね。

コメント

その対話のあと、まだ敬語について考えた、そんなに難しくないと思うになった。二つの見方があると思う。一つは敬語の構成だ。これはフランス語より複雑けど、よく勉強すれば、敬語が分かるになると思う。二つはいつか敬語を使うことだ。これは人間関係と関連させると思う。だから、言語の勉強の間に、文化も勉強するのは必要だと思う。別々によく勉強すれば、後で合併すれば、たぶんうまく敬語を使うのはできると思う。

そんなに難しくないの意味は日本語の礼儀はフランス語の礼儀より難しくない。そんなに違わないも思う。

そして、語彙場の質問は本当に面白いと思う。言語は人間と自然の歴史を反映すると思って、これは不思議だと思う。



結論

どうして外国語の勉強を始めるか。

私は日本の文化に近づけたかったが、エリナさんはフランス語はきれいだと思った。私は日本に興味があったので外国語の勉強を始めたが、エリナさんは他の言語を勉強したかった。この点を深めなかったのはすこし残念だと思う。エリナさんはフランス語を選んだが、ただ外国語を勉強したかった。こんな場合には一番大切な質問は「どうしてフランス語を選んだか」ではなくて、「どうして外国語に興味があるか」だと思う。もちろん、どうしてエリナさんはフランス語を選んだかを知りたかったが、今はどうして外国語を学びたかったかと知りたいである。

自分の場合についてよく考えて、あまり変わらないのが分かった。言い換えれば、今年私はドイツ語の勉強をもう一度始めるし、英語が大好きだし、スペイン語と中国語と韓国語とロシア語を勉強したいである。それでも、この外国語につながる文化にあまり興味がない。もっと正確に言えば、日本の文化はその文化より興味がある。

しかし、一般に、私は他の言語に興味がある。他の言語はどう機能するのが分かりたくて、世界の全ての言語を比較すれば、「違うことは何か」とか「同じことは何か」とか、こんな問題について考えたいである。そして、誰でもと話すことができればいいである。人の出身国はどうでもいいであって、話せたいである。

私の場合はそう思うけど、他の人はどうであるか。どうして人々は外国語を勉強するか。音色は一つの理由だけど、基本の理由ではないと思う。理由は「他」の魅力を感じることに思う。この「他」は時々完全に明確である。私の場合はこの「他」は日本である。時には、もっとぼんやりとしている。たとえば国際関係の分野に働きたい人も外国語を勉強しなければならないけど、それは言語の音色が好きからではない。それに対して、やはり「他」の魅力を感じると思う。国際公法や国際商業は同じだと思う。

今、外国語を勉強している人に聞きたい質問は「どうして外国語の勉強をはじめましたか」である。「どんな「他」に魅せられていますか」と聞きたいである。

私は日本語の音色が好きだったけど、それだけではなかった。音色は私の出発点だったけど、音色は足りなかったと思う。私は韓国語とロシア語の音色も好きだけど、日本語の勉強を選んだ。しかし、日本の文化だけではなかった。中国と英語の文化も好きだけど、日本の文化の勉強を選んだ。

たぶん文化と言語の全体のおかげで私の心は日本を選んだらと思う。たぶん錬金術の関係である。フランスに、もし誰かがみだりに他の人と仲良くしたら、「錬金術だ」と言う。そして、「鉤のついた原子」と言う。きっと私は日本と鉤のついた原子があると思う。私は外国語と外国に文化と多様性が好きである。新しさと出会うことが好きである。色々な国にちょっと興味があるけど、私の心は日本を選んだ。鉤のついた原子があるからだと感じる。



終わりに

このプロジェクトの前に、どうして日本語を勉強したかったのをあまり知らなかった。私の将来の計画は日本とつないでいるから、こんな質問に答えられないのは困ると思った。ある意味では、自分のことをあまり知らなかったのようだったと感じる。だから、このプロジェクトの始めに、「日本語と私の関係はどんな関係なのか」という質問について考えたかったである。

このプロジェクトの参加は難しく、よく時間を掛けたけど、私にとって、本当に有益な経験であった。一番明らかな上達は書くことである。今日本語で書くのはこのプロジェクトの前より簡単になった。たとえばたくさん間違いをしても、もっと速く書けるようになった。今から、もっと日本語で書きたいと思う。

書くのは今もっと簡単だけど、これは重要なポイントではないと思う。重要なポイントは自分について色々なことに気づいた。「日本語と私の関係」の問題の答えは想像より複雑であったが、メンターと他の学生のコメントのおかげで、色々な点について考えられて、自分をもっと知るようになった。今、きっと完璧ではなくて、私の選択を説明できると思う。そして、このプロジェクトのおかげで、私の考えについてもっと話せるようになった。

このプロジェクトのタイトルは「考えるための日本語」である。始めから、このタイトルが好きだったけど、あの時あまり分からなかったと思う。好きだったけど、考えと日本語の関係が本当に分からなかった。今、分かると思う。日本語についた考えたのおかげで、よく考えて、自分をもっと分かるになった。

だから、皆さん、本当にありがとうございました。



日本語と日本語の不思議

キーワード: 感情・音色・主観・言語

モラビト・エロディ

動機文

二年半前、日本語を勉強しはじめた。リール第三大学に入ったら、「どうして日本は夢になったのか？ どうして日本が好きなのか？」とよく考えた。最初はうまく説明できなかったのに。

実は私と日本の本当の出会いが中学校のときだった。文学と本が好きだったので、図書館でよく本を読みに行ったものだ。そこで、本のおかげで日本という国を発見した。その時、私はフランスの文化と環境しか知らなかったのだから、私にとって日本は新しく、遠くて、手の届かない文化のようだった。だから、興味があって、日本の文化と言葉を勉強する気になった。つまり、最初は私にとって日本は知らない文明を表して、私は魅せられた。偶然や好奇心などだったかもしれないけど、少しずつ、気付かない間に日本に興味がわいてきた。

日本と言う国を勉強して、だんだん日本語について考えるようになった。実は、子どものころから外国語に興味がある。たくさんの外国語を話せるのを夢見た。異なる文化を持つ人々と話せて、新しい文化を発見して、それは、素晴らしいことだと思う。日本と日本の言葉を発見した時、その気持ちが強まった。二年半前、日本語の言語学を勉強し始めて、そして、一年前フランス語の言語学も勉強しはじめた。それで今、言語学に、特に音声学に興味がある。その上、フランス語と日本語の機能の仕方を互いに比較するのはとても勉強になることだと思う。

最初は「日本語はフランス語とは正反対だ」と言ったけれど、皆と一緒に話して、私の視点が広がった。正反対という言葉は強い意味があるかもしれないから。だから、「日本語とフランス語は似ていない」と言ったほうがいいと思う。

フランス語を話す人にとって、日本語の構文や文法などはとても難しそうで、文字も複雑なようである。この点について日本語はフランス語とは正反対だと思う。例えば私は英語を勉強し始めた時「簡単だ。フランス語に似ている」と思ったけれど、日本語を初めて聞いて、勉強し始めた時、全然そう思わなかった。最初は日本語の文法はフランス語の文法よりとても簡単そうだとと言える。例えばフランス語の綴りと活用はとても難しく、この点について日本語はシンプルのようだ。でも私は日本語を勉強して、私にとって日本語は少しずつ難しくなったようで、日本語はシンプルであると同時に難しいと思うようになった。どうしてだろうか。実は私にとって日本語は静かな川と似ているけれど、この川の後ろには大きな滝が隠れている。この滝は日本語の難しさだと思う。この滝は何でしょうか。たぶん日本語にはニュアンスが多いからかもしれない。日本語で同じ意味を表すために、たくさんの言い方や表現があるから。私にとってこの滝は日本語のニュアンスである。フランス語は日本語よりも厳しいと思う。ニュアンスはいいことだけれど、同時にマスターするためにはとても難しい。その上、日本語を書くのと、そして日本語を話すのとではとても違う。もちろん、フランス語でもこの異なるところがあるはずだけれど、日本語ではそれはもっと強いと思う。

次に、私にとって、日本語のニュアンスを説明できるもう一つの理由は文化の影響である。実際外国語の背景が理解できなければ、この外国語が理解できないと思う。

つまり、文化と言葉は繋がっていて、言葉は文化の影響を受けるはずだと思う。日本語を勉強して、どうやって言葉は文化の影響を受けるのがもっと分かるようになった。



そして、日本の文化は私の文化と違うので、それはとてもおもしろい。例えば、日本語の言葉のなかで、「魚」と関係がある語彙がたくさんあるし、オノマトペもたくさん使われて、フランス語とは違う。だから、日本語を勉強するのが本当に好きで、毎日たくさんのことを学んでいて、世界ももっと理解できる。文化の影響について、よく考えた。例えば、日本語で「敬語」というものがある。フランス語ではこのようなものがないので、それは難しく、と同時にとても勉強になることだと思う。ある人は「日本の文化はフランスの文化と似ている」と思う。私はある点について、それは確かに本当だと思うけれど、でも私にとって、類似があっても、異なることもたくさんあると思う。日本の言葉を見れば、例えば「敬語」というもの、それがよく分かる。日本に行ったときにフランスとは違うところがあると感じた。例えば人々の行動や考え方や習慣などである。これらの異なるところは言葉に影響を受けるはずだ。しかし、文化と文明というものはとても難しく、深いことだと思う。私は日本に長い時間住んでいないので、日本の文化についてうまく話せない。私がまだ分からないことがたくさんあるし、もっと知りたい。

最後に、日本語の中で、私の一番好きな物は「音色」だ。音声学に興味があつて、日本語の音色を勉強するのはとても勉強になることだと思う。似ているところがあつても、日本語の音色とフランス語の音色は違うと思う。

私にとって日本語はきれいで、優しい歌のような言葉だ。それは感情だけれど、今よく考えて、人々と話して、その感情を説明したい。「どうして私にとって日本語の音色は優しい歌のようなのか。どうして私は「音色」という言葉を「感情」という言葉と結び付けるのか。」

実は私は音楽が好きだ。小さいころから歌を歌って、音楽を聞くのが好きだ。音楽を聞くとたくさんの感情が出てくるから。でも、最初は音楽は音だろう。私にとって、言語は同じだ。言語は音の寄せ集めだと思う。そういうわけで、音楽と同じように、言語と感情もつながっている。それは音色のおかげだとしっかり思う。日本語を聞くと、旅行をしているようで、優しい感じもあるし、シンプルであると同時に特別な音色だと思う。実際、日本語の音色はフランス語の音色よりシンプルだと思う。私にとって複雑なことがいつも最良ではない。私はシンプルで、優しい音楽と歌が好きだ。このような音を聞くと、気持ちがいいから。だから、日本語は優しい歌のようだ。シンプルだからだと思う。この簡単さから優しい感情が出て来ているかもしれない。

簡単さといえば、私は日本語の音はフランス語の音よりも簡単だと言った。例えば、日本語には母音が少ないし、その母音はフランス語にも存在している。だから、そのため、人々は「日本語はフランス語に似てる」とよく思うかもしれない。でもその母音はやはりフランス語の母音とは少し違うと思う。つまり、私にとって日本語の音色はフランス語の音に似ているけれど、結局違うと感じる。しかしながら、私は人によって、言語について感じることを考え、違うと理解できるようになった。私は「フランス語と日本語は似ていない」と思うけれど、他の人はそう思わないと分かっている、認める。ある人は韓国語とか英語とか中国語などが好きで、でも、同じ言語が好きな人々の中で、異なる感情と気持ちも見える。人によって、耳が違って、同じ感覚ではない。やはり、言語の感想は主観的で、言語は本当にすばらしいことだと思う。

結論として、私にとって日本語は不思議だ。この言葉を理解でき、うまく話せるのが私の目的であり、チャレンジである。「どうして私にとって日本語は不思議なのか？」と考えていたが、今、答えを見つけた。日本語はシンプルであると同時に複雑であるから。優しい音色と簡単な機構、と同時に深い風習とニュアンスの集まったもので、それは、私にとって日本語の不思議である。

最後に、将来、日本でフランス語の教師になりたい。フランス語も日本語も勉強したくて、日本人生徒とたくさんのかたちをともにしたい。つまり、日本語と日本は私の人生を変えたと言えて、それは私には今目標があるからである。



対話報告

対話の相手はリアルでフランス語を勉強している日本人の留学生です。お名前は達也さんです。達也さんは、私と同じように英語を勉強して、その後他の外国語を勉強すると決めました。彼は大学でフランス語を勉強して、卒業の後で日本の会社で働き始めました。四年間の後、彼は仕事をやめると決めて、フランスへ留学することにしました。私にとってそれはとても偉くて、彼の行動には感心します。私は「達也さんと対話をするのはとても面白くなるかも」と思うようになりました。彼は、私と同じように外国語と特別な関係があると思ったので、彼と対話することにしました。対話をする前に達也さんの外国語に対する考えを完全に分らなかったのが、面白いことを発見できました。とても勉強になる経験でした。

言語との出会い

E: 達也は大学でフランス語を勉強して、その後日本で働いた。今フランスに留学してるでしょ？

外国語との出会いについて。どのように出会い、勉強し始めたのか。

興味があったのか、義務だったのか？例えば私は子どものころから、外国語が好きだったので、それは興味でしたが、たまに決めることができないし、義務になるでしょう。どう思う？

T: 日本では他の国と同じように中学とか高校で英語の勉強をする。僕は日本語が好きだったから他の国の言葉にも興味があった。

E: でも、その中でもどうしてフランスとフランス語を発見したのか。

T: 高校までは英語を勉強して、大学に入っても英語の勉強をしたかったけどみんな英語を判るから他の国の言葉を勉強したいと思った。フランス語は世界で一番美しい言語と言われているからすごく興味があった。

E: 日本人はフランス語は世界で一番美しい言語だと思っているということ？

T: そうやって聞いたことがある。

たぶん例えばフランス語のリズムであったり、発音がその原因だと思う。

E: それは、達也の考えも表す？

T: フランス語を勉強し始めて、僕は英語よりもフランス語を勉強するほうが好きになった。なぜかと言ったら、やっぱりフランス語はきれいだと思ったから。

コメント

人々にとって言語との出会いは違って、例えばたまに最初は義務だけで、後は興味になりました。私にとって他の人のある言語との出会いを聞くのがとても面白いと思います。なぜ私は日本語に興味があるのか、なぜ彼はフランス語に興味があるのか、なぜ言語の感想は人々にとって違うのかなどを考えて、それはとても面白いです。答えはあまりなくて、主観のことだからですが、私はそれについて聞いたかったです。



言語の感想について

E: 実は、私は日本語はきれいだと思っていたけど、みんなは私にどうして日本語はきれいなのと聞いたので、考えた。理由は全ての言語は音色であり、音の寄せ集めだと思う。言語の中で、特にフランス語より日本語の音色はシンプルだから私にとって日本語はきれいな言語だと思うかもしれない。だから、達也にどうしてフランス語はきれいなのかと聞きたい。

T: まず、日本語と全然違う。自分にとってまったく新しい体験だ。

どうしてきれいなのかと言ったら、日本の発音にはない音がたくさんフランス語にはあるから。それとフランス語の文法もおもしろい。理由は名詞に男性と女性とあるし。文章の組み立て方も日本語とは違う。

E: 私もそう思う。日本語とフランス語は違うと思う。

でも、ある人にとって、日本語とフランス語は似ているらしい。

私は考えた、多分言語は主観のことかなと思っていた。

同じ言語が好きな人々の中で異なる感情と気持ちも見える。

どうして、ある人々にとって日本語とフランス語は似ているんだと思う？

T: 僕は日本語とフランス語が似ていると思ったことはないから難しいけど。。

E: 言語の感想は主観のこだから？

T: だから考え方が違えば、似ているも似ていないも人によって違うんだと思う。でも全ての言語は主観でしょう。だから、その理由でいうと全部の言語が似ていることになるよね。

E: そうかもね。

コメント

その会話をするのはとても難しかったです。達也さんは日本語でうまく説明できるし、私はフランス語でうまく説明できますが、同じ言語を話さないのも、それはとても難しく、と同時にとても面白かったです。その会話は感想についてだったので、外国語で自分の考えを表すのは簡単ではないことです。また、このテーマについて・言語の感想について・達也さんの考えは自分の考えと似ています。でも、私にとって達也さんのフランス語の感想を聞くのはとても面白かったです。私は自分の言語、つまりフランス語は普通な言語だし、子どものころから毎日フランス語を聞き、話すからです。達也さんの考えを聞いた後、「ああ、外国人はフランス語を聞くときそのようなことを思う」と思いました。特に「それとフランス語の文法もおもしろい。理由は名詞に男性と女性とあるし」の文章はとても面白くて、私はその文章を聞いたとき、ほほ笑まずにはいられませんでした。言語の感想は人々にとってやはりとても違って、同じ感覚ではありません。

「音色」と「感情」

E: 達也は日本の発音にはない音がたくさんフランス語にあると言っていたでしょ？

私はさっき言語は歌のようだと言ったでしょ？ 私にとってはその音色からたくさんの感情が湧いてくる。達也はフランス語を聞くと何を感じるか。

T: 勉強を始めたばかりのときは、フランス人と話す機会もたくさんなかったからフランス語の音を聞いて、単純に「かっこいいな」とか「難しい話をしていそうだな」と思っていた。でも今は違う。言語はコミュニケーションの手段でしかないのも、どこかの国の言葉がかっこよくて、どこかの国の言葉はかっこよくないとかという偏見はなくなった。だからエロディの言った「音色」からいろいろな感情がわいてくるというのは違う。



E: 確かに達也の意見は分かるけど、感情というものは私にとって例えば日本語を聞くと優しい気持ちになる。達也は日本語や英語やフランス語を聞くときそういう気持ちが浮かんでくるのか。音色から感情や気持ちは出てくるのか。達也が言語はコミュニケーションの手段でしかないと言ったけど、私にとって言語はもっと深いものだと思う。言語は音色と言葉で人々を結びつけていることだと思う。

T: 音色が感情を表すのは分かるけど僕にとっては日本語を話すときだけそういう気持ちが浮かんでくる。それは日本で育ったこともあるけど、日本語の会話はつねにキャッチボールのようだと思う。なぜかと言ったら、多くの日本人は相手が話している間はうなずいて聞いて相手の質問が終わってから自分の意見を言うから。どちらかというと「音色」よりも「会話のリズム」が僕をそういう気持ちにさせているんだと思う。

E: そうですか。でも今達也は私と一緒に一生懸命日本語とフランス語で話しているでしょ？

同じ言語を話さないけど、私たちはコミュニケーションできるでしょ。私たちは、言葉で結びつけているでしょ。それは言葉と音色のおかげじゃないかと思う。

外国語で自分の気持ちや感情を伝えるのはとても難しい。でも難しくてもコミュニケーションできるからそれはとても素晴らしいことだと思う。

T: そうだね。だから外国語を勉強するのは楽しいし、自分の感情や言いたいことを他の国の言語で伝えられた時はすごくうれしい。

E: それは分かる。私にとって日本語で私の感情を伝えるのはとても難しいけど、人々が「あー、分かった」というとき私はとても嬉しい気持ちになる。

コメント

その会話は一番大事な会話でした。このプログラムに参加して、人々と話して私は自分の考えは皆とは違うことに気付きました。もちろん皆は自分の意見と考えを持って、皆は私と同じようにいつも考えられないはずですが、それは問題ではありません。でも、私にとって「音色」と「感情」はつながっていることは当然で、皆はそう感じると思いました。だから、少しびっくりしました。やはり人々にとって音色はいつも大切なことではなくて、外国語を聞くときにもたくさんの感情が湧いてくるのは当然ではないと分かりました。私は少しナイーブだったかもしれませんが、それはしっかり思ったので、少しがっかりしました。だから達也さんの意見を聞いたとき、「残念だ。彼は音色の特別な力に気付かないかもしれない」と思いました。皆がそのような特別な力を感じることを願っている。音色からもらう感情は素晴らしいから。

言語と文化に間のつながり

E: 最後に文化について。私は文化は言語に繋がっていると思う。あなたにとって、言語と文化の間にどんなつながりがある。

T: もちろんあると思う。フランスに来て、何か月かたったけどやっぱり日本のせっきゃくは丁寧だと思う。それは文化と文化の影響を受けた言語のためだと思う。つまり、文化と言語はみっせつな関係があると思う。

E: 丁寧というのは敬語を話すから。

T: それは違う。フランスの文化は個人を大切にする文化だと僕は思っている、だからデモやストライキも多く、自分の意見をはっきり伝えることができずばらしいと思う、一方、日本の文化は和を大事にすると思う。だからお客様は神様ですという言葉があるくらい。自分の意見をはっきり伝えられないんじゃないかという側面も持っているけど。

E: つまり、「和

というものが日本語に影響を与えているということですか？

T:僕はそう思う。



E: 文化は「和」というものを守るので、日本人も「和」を守って、それは日本語に影響を与えるでしょ。それはすばらしいと思う。。。

そう言う訳で、文化と人々の性格と言語は繋がっているということ、私もそう思う。

E: つまり、結論として一言で言うと達也にとって言語またはフランス語とは何か。

T: 他の国の文化を知るために欠かせないもの。

E: つまり、必要なことだということ？

T: そうだね。

コメント

その会話はとても面白かったです。これについて私とは違う文化を持っている人と話すのはとてもよかったです。達也さんの考えを聞きながら、私は何回も「すばらしい」とか「おもしろい」などを思いました。なぜかと言ったら、自分に考え方を広げるためにそれはとてもいい経験だったと思います。達也さんは、私と同じように「文化」と「言語」はつながっていると思いますが、達也さんの考えは日本人の考えだから、結局彼の考えは私の考えと少し違って、それはとても勉強になる話でした。実は達也さんと自分の考えは似ているのに、立場は違います。達也さんの立場は「日本で育ってる人の立場」で、私の立場は「フランスで育って人の立場」です。つまり、私は達也さんと同じように「文化」と「言語」はつながっていて、言語は文化の影響を受ける・それとも文化は言語の影響を受けること、それは他の議論ですが・」と思います。そういうわけで、自分の考えと達也さんの考えは同じです。しかし立場は違います。同じ視点を持っていますが、出発点は違います。達也さんの出発点は「日本の文化」で、私が出発点は「フランスの文化」です。だから、少し違います。達也さんの立場のおかげで、私は立場を変えて見て、それはとても勉強になりました。

「なぜフランス語は自由な言語みたいのかな」とか「どうして「和」というものは日本人にとってそんなに大切に、日本語にそんな影響を受けるのか」とよく考えています。それはとても深い話で、日本に長い時間住んだら、たくさんのことを理解できるかもしれません。とにかく、「文化」と「言語」に間のつながりについて、もっと知りたくて、勉強したいです。



結論

このプロジェクトを始めた時、何を書くかどうかあまり分からなかった。初めは日本語を勉強する気になった理由は、偶然や好奇心だけだったかもしれない。だからこのレポートを書きながら、「どうして日本語が好きなのか？」とか「日本語の中で何が一番好きなのか？」とか「自分にとって何が必要で、重要なのか？」と思うようになった。

日本語の中でたくさんのが好きで、日本の文化にも興味がある。しかし、「私と日本の関係」の中で「言語」というものを一番大切にしていることに気付いた。言語は何なのか？人々にとってそれは違って、主観のことである。例えばある人にとってそれはコミュニケーションの手段だけであって、またはそれは仕事をするための義務で、必要なことである。

でも、考えれば私にとって言語はもっと深いものだ。コミュニケーションの手段よりも言語は音色と言葉で人々を結びつけていることだと思う。その上、世界を理解でき、自分の考えを広げるために、それは必要なことである。言語から強い力が湧いてくるようだと思う。この力は何だろうか？それについても考えることができた。

私は子どものころから外国語が好きで、たくさんの外国語を話せるのを夢見ている。実は

文学や本や音楽も大好きだ。言語と本と音楽はことばの集まったものだからかもしれない。「ことば」は私にとって大切なものを表すと思うようになった。でも、言葉よりももっと大切なものを発見した。それは「音色」の力である。音楽と言語は言葉の集まったものなはずだけれど、それは音色の集まったものでもある。私は音楽に小さいころからいつも勇気をもらった。それはどうしてだろうか？音から特別な力と感情が湧いてくるからだと思う。だから、私にとって全ての言語は歌のようである。「音色」に言語は音楽性をもって、その「音色」のおかげで言語は生き生きとしている。私はことばが分からなくても、「音色」のおかげでいろいろなことを感じる。でもこのプロジェクトに参加して、対話をして、皆はそう思わないと分かって、皆がそのような特別な力を感じることを願っている。音色からもらう感情は素晴らしいからである。

それに、日本語を勉強し始めたばかりの時、日本語を聞くときほとんど何も分からなかったけれど、今よりその「感情」はもっと強かった。つまり言語を全然知らないとき、音色からもっと深い感情をもらうと思う。ことばの意味に集中しなくて、音だけ聞かから。私は意味や論議よりも情緒を大切にしていることに気付いた。

例えば、英語を勉強し始めた時ほとんど何も分からなくても、英語の音色が大好きだった。でも英語をよく理解できるようになったとき、その言語は普通になった。出てくる感情は以前より弱かった。これに気付いたときに私は少しがっかりした。

でも私と日本語の間の関係は違うと感じた。私にとって日本語は不思議だと言ったわけだ。言語の中で日本語の音色は特別で、優しい歌のようだと思う。日本語の音色はシンプルだからかもしれないと言った。その上日本語のニュアンスにも感心している。だから、「敬語」には感心している。フランス語にそのようなことが存在していなくて、私は「敬語」の機能の仕方をあまり理解しなくても、敬語のリズムと音色が好きだ。

文化と言語の間のつながりについても勉強になることを学ぶことができた。視点の立場によると感想は異なって、対話の相手とそれについて話すことはとても面白かった。

私は言語について、特に日本語についてはまだたくさんのことを理解していなくて、コロンブスのようにまだたくさんを発見することを願っている。



終わりに

このプロジェクトは普通の授業とは違って、新しい経験だったので、「やってみたい」と思った。最初は私は自信がなくて、「私はできるかなあ」とか「日本語で私の考えと感情を伝えることができるかどうか、皆は私の言いたいことが分かるかな」などを考えて、少し心配していた。結局、グループの名前、つまりコンプスと同じようにこのプロジェクトのおかげでたくさんの新しいことを発見することができた。参加したのを全然後悔していなくて、このようなプロジェクトに参加してとてもよかった。

作文を書いて、皆さんと一緒に意見を交換して、自分のこともっと知るようになって、と同時に他人ももっと理解できるようになったと思う。言語を勉強するとき、世界と他人に自分を明かさなければいけないだろう。世界は大きくて、いろいろな文化が存在して、皆は異なる考えを持っているからだと思う。そのようなプロジェクトのおかげで、人間的に大きくなったはずだと思う。

それに、日本語が上達していったと思う。このプロジェクトに参加する前に私は日本語で書かなければいけない時、自信がなくて間違えることを恐れてばかりいた。でも「考えるための日本語」に参加して、私の意見と言いたいことを日本語で書かないといけなかったもので、色々考えて、書くようになった。メンターや私の大学の学生はコメントをしてくれて、私の考えを理解しようとしてくれたとき、私はとてもうれしくなって、もっと頑張りがかった。

最後にたくさんのことを学ぶことができ、私の考えも広げることができた。皆さん、本当にありがとうございました。



「言葉の感受性」

キーワード: 言葉の感受性・どうして外国語が好き・命の実験・好奇心

ユハット・ヤシン

動機文

私の両親は別の国から来た。お母さんはフランス人で、旅行が大好きですから、モロッコに長い時間滞在した。あそこにお父さんに会った。妊娠の九ヶ月はあの北アフリカの国にいたのに、私はフランスで生まれた。アラビア語で話すことができなくても、この言葉をよく聞いたし、少し分かる。

そして、西フランスに住んだから、ブルトン語という方言があったから、母親は幼稚園と小学校と中学校でこの言葉を習わせた。歴史とか数学の授業はブルトン語でだけで、十年間ぐらいこの方言を習った。英語を習って始めたときにすぐに「英語が大好きです」と思った。今まで私の生活はいろんな言葉があって、やりたい仕事は外国語を使う仕事になった。私にとって、質問がある。なぜ外国語の勉強と話すことが大好きか。また、外国語の習うことは問題があまりないようだと考えた。「言葉の仕組み」があるか、「言葉の感受性」があるか。

世界の全ての人にとって、日本語はとても難しい言葉と言うことだ。そして、ヨーロッパ人にとってそのアジアの言葉は私たちの言葉に比べて、とても違う。習うことは本当に難しくなると思う。たとえば、日本語で動詞は文の終わりにあるし、主語がない文もたくさんあるでしょう。日本語でその違うところはフランス人にとって複雑だと思う。もちろん、漢字の習うこともとても難しい。加えて、何でも外国語を話せない者が多いということだ。

そのため、「なぜある人々は外国語を習うことが無理ですか」と考えた。子供の時から、母国語以外言葉を聴いた人にとって、やさしくなるか。日本語はすばらしい言葉と私は思っていて、難しいもだと思っているが、無理ではないそうだ。「いろんな文化がある人」と一緒に対話をしたい。いろんな文化があるというのは別の国から来た両親や外国の家族があるのや子供のときか他の言葉をよく聞いた人々だと思った。その結果、その人々は「言葉の仕組みや制度」を分かったか。「言葉の感受性がある」と言えるか。

自分で考えていたが、それは私が日本語が大好きが一番理由だと思う。みんなの外国語が好きだが、日本語のほうが好きだ。それはなぜか分からないが、対話でその質問の解決を見つけたい。日本語とどんな関係があるか。私の脳の中で、「言葉のところ」があるか。このテーマの説明は難しいと思うが、しようと努めることにした。

テーマを決める

次に、新しい質問が出た。日本語に対してどんな関係があったのか。自分の関係は他の人に似ているのか。ある日本の方に対して、日本語という言葉は悪い道具になる場合があるということだ。日本語を使って、悪いことを言うと、良くない道具になるそうだ。そして、フランス人にとって、「言葉の感受性」があると思ったが、どんな言葉に対してなのか。色々な方言とか言語を聞いた人はその「感受性」もあるかもしれない。言葉は会話の道具だけではなくて、文化を持っていることもだと思う。それはどうしてなのか。文化を持っていたら、どんなところなのか。新しい文化を発言するために、言葉を習うことがとても必要だと思う。民族の考え方は言葉で出るかもしれない。自分の文化を良く見るために、いいところと悪いところについてを調べるために、別の文化を習わなければならないと思っている。



最後に、生きることをわかるために、言葉を習うことという経験も大切だと思う。でも、他の経験もあるだろう。どんな経験は必要なのか。たくさんの経験に合うと、自分の意見と自分の考え方を考えることができると思う。自分を良くなるために、それも重要だと思う。



対話報告

アキムさんはなぜ相手なのか。同じクラスにいて、私たちのお父さんも北アフリカから来たので、言葉に対して似ている考え方があるかもしれないと思った。そして、彼のお母さんも別の国から来た両親なので、彼はフランス語や英語やアラビア語をよく聞いているかもしれないと思った。彼はなぜ外国語を勉強していると知っていたか、どうして日本語を選んだのも面白そうだと考えた。

「文化」

Y： はじめに、どうして外国語を習うことにしたんですか。

A： 実は、最初外国語ではなくて、歴史でした。私の父はアルジェリア人で、リールの私立学校で行っていたので、時々他の生徒は私に「本当のフランス人じゃないよ」という宣言があった。それは違うと見せるために、フランスの歴史を真面目に習い始めました。

Y： アキムさんにとって、歴史は国の文化をはっきり持っていますね。

A： そうですね。過去を見ると、人間の性格や考え方をわかりやすくなると思います。

Y： なるほど。でも、歴史のように言葉は文化を持っているんですね。

A： はい、別の文化や習慣をわかるために、言語を話せることは必要だと思います。自分の父は外国人なので、フランスに着いた後にフランス語の勉強を始めました。そして、私を育て、フランス語を使いました。

Y： アラビア語で話していましたか。

A： いいえ、フランス語ばかりでした。彼は「フランスの社会に住むためにこの国の言葉を持つと溶け込みやすくなる」と思っていました。それで、北アフリカの文化のいいところを残しながら、悪いと思ったところを捨て、新しい文化を作ることができました。

Y： 「自分の文化」について、どう思いますか。

A： そうですね。私はフランス人でも、フランスの文化とかアラビアの文化を持っていません。実は、「世界の国民」だと思います。一つの文化とか一つの言葉に比べて、色々を持ったの方がいいと思います。

Y： 私もそう思います。一番強いとか面白い国や言葉があるうと思いますか。

A： 違います。一番いい人がないから、一番いい国や民族もないと思います。

Y： アキムさんはどうして日本語を習い始めたんですか。

A： 十年前はアジアという大陸について全然知らなかったけど、世界の歴史で中国や日本はとても重要な国でしょう。それから、日本語を決めました。しかし、日本語しか習わないことは足りないと思います。日本語は私の目標の始めです。全ての国の一番いいところを知りたいです。そして「自分の文化」を作ることができると思っています。

「経験」

Y： でも、今まで、日本語に関係している経験がたくさんありますね。なぜ日本を最初に決めましたか。

A： 実は、初めに日本ではありませんでした。欧米の国の文化を勉強して、中国も大きい国だと見えるとアジアの国について知りました。父はフランスに来たとき、北アフリカの文化の「悪いと思ったところ」を捨てて、フランスの文化のいいところを習いました。その教訓で、私は日本が好きです。明治時代、日本は欧米の国の技術を習い始めて、例えばフランスから軍隊の技術を取ったとかドイツから法律を取ったということですから。とても面白い考え方だと思いました。

Y： それをして、「自分の文化」を良くなることができると思っていますか。

A： はい、そう思います。別の言葉を習って、別の国の歴史を勉強して、自分の知識を広がって、みんな面白くなると思います。



Y：経験ということについて、どう思いますか。たくさん経験にあつて、生きることをわかりやすくなると思います。アキムさんは？

A：そうですね。アフリカの民族の考え方を思い出します。あそこ、古い人が亡くなるとき、全ての人はとても悲しくなるそうです。死んだ人の知識は大きいからです。たくさんの教訓を持っている人だということです。

Y：悪い経験にあつて、いい経験にあつて、どちらが飯田と思いますか。悪い経験を会うと、同じ間違いをして続かないと思います。ころをもう一度しません。

A：はい、強くなると思います。

「言葉」

Y：でも、日本語という言葉でとても面白いところもあると思いますね。もちろん、日本文化はすごいですが、フランス語に全然似ていないので、とても面白いと思います。

A：はい、例えば、日本語の文で、最初は空気を教えて、そして場所を言って、動きを言いますね。動詞は採集ですね。主題がない分は多いですね。フランス語で、無理なので、面白いと思います。

Y：アキムさんの両親は別の国から着たでしょう。それで、外国語を習うことはどうですか。易しくなったと考えていますか。

A：あのう、これについてまだ考えませんでした、わかりません。たぶん、新しいことを良くしりたいので、がいこくごをんらうと、すぐに好きになると思います。

Y：でも、「言葉の感受性」という気持ちを感じていますか。

A：全然わかりませんが、みんなの人は「言葉の感受性」があるのかなと思います。

Y：アキムさん、ありがとうございました。面白い会話に成ったと思います。

コメント

私のようにアキムさんのお父さんは北アフリカから来た。でも、彼の父親はフランスに住んでいる。付いたときフランス語をまだ話せないが、アラビア語を話さないことをして、フランス語を習い始めた。フランス語で話して、アキムさんを育った。「イスラム文化の悪いところ」を忘れるように自分の文化を作ってみた。そのため、アキムさんも自分の文化を探している。

最初に、民族の違いは目で見えて、言葉は溶け込みやすく煮成るために、一番便利な道具だと私は思う。他の人と一緒に話す前にその者を見て、何かをもう思っていると言うことだ。「彼は親切のようだ」とか「彼女はジャズ音楽が好き人みたいだ」とかをすぐに考えている。そして、別の国に行く前に、「先入観」と言う気持ちが時々あるので、外国人として黒人と一緒にたくさん話さなければならないと思う。



結論

アキムさんと私の考え方は良く似ているので、対話の説明するときに易しくなった。しかし、彼は「歴史が文化を具体化している」といったが、「言葉が文化を持っていることだ」と私は思っている。実は、歴史や言葉は文化の二つ「箱」になるかもしれない。世界中、過去を見ながら、各地で民族の考え方や技術は進歩しているようだ。全ての文化も変えているようだ。でも、言葉を使わなかったら、発明や歴史を伝えることができなかったようだ。人間の世界をわかるために、色々な言葉を習うことは一番必要な道具だと思う。

ところが、別の言葉を習うことは難しいだろう。言語の「制度」や「仕組み」時々大丈夫だが、本当の言葉を話すために、もっと大変だと思う。文法や語彙の勉強は便利でも、国人の考え方をわかるようにして、長い時間国に住んでいるほうが良いと思う。別の言葉を習いどんな意味だか。日本でも、フランスでも、人々は大抵一つの言葉を聞いている育たれたようだ。自分で自分の国の悪いところと良いところを見えることは無理だと思う。状況を良く見えると「prendre du recul」とフランス語で言うことはいいだろう。「後退」をして、何でもをわかることができるようだ。他の言葉を使って、わかりやすくなるかもしれない。言葉も世界の文化の違うところを見せていると思う。その違いを見ると、教訓が出ると思う。教訓と言うことは例えば「私の国で道は汚いよ!」とか「この国の宗教で色々な神があって、すごいだと思う。」と言う考えが出られるかな。フランスと日本と言う国は全然同じじゃないので、教訓はもっといっぱいあると思う。

そして、「命の実験」について話した。皆さんの命で、悪い実験と良い実験を実験しているようだ。「いい実験は命の段階だけだ」とアキムさんは思っている。その上「悪いのや失敗はいい事だ」を説明してくれた。失敗で教訓も受けるようだ。なぜか失敗したことを調べるともう一度この誤りをしないようにすることができるということだ。言葉のように実験は世界をわかるやすくなっていると思う。



終わりに

まず、この面白い経験ができること、皆さんありがとうございました。実は、二年生なので、日本語で考えることは難しかったですが、日本語の上達のために、とてもいいと思います。七週間はとても早いと思って、もし日本語について考えたいときがもう一度あったら、六ヶ月とか一年間の時期になるようです。このプログラムのはじめ前に日本語で書かなければ時は怖い感じでしたが、今は良くなると思います。全ての言葉で、書くことが下手で、とても難しいと思います。しかし、「考える日本語」をして、いい経験になりました。一番目の段だと思います。終わりに、自分の考え方を他の人の考え方に対することは「自分の文化」を作るために、とてもいい経験でした。



「書くの嫌」

キーワード: 書くことへの気持ち・言葉を使うこと

ビュケ・マキシム

動機文

どうしても、書かなければいけないときは嫌。嫌な感じになる。なぜ人がそんなに書きたいのか、私には分からない。私は嫌だ。

家族みんなが科学が好きで、文科があんまり好きではない。嫌という気持ちになったのは、初めて苦手だと気づいた時だと思う。最初から書くことが苦手で、どんなに小さい作文でも、非常に長い時間かかる。小学校の時は、量が足りなかったり、先生が気に入らなかったりするたびに、何度も書き直すように言われた。だから、いつもお母さんに手伝ってもらった。大学に入ってから、お母さんにはもう頼らないが、ただレポートや小論文をできるだけ避けることにした。

なぜ書くことが嫌なのか、私には分かる訳ないと思う。でも、なぜ書くことが苦手なのかを説明する前は、書くってなんだろうと言う質問に対して答えないといけなかった。書くということは、次の二つの点があることを強調したい。まず書かされているときの書く、学校や仕事で誰か上の人に書かされているとき、自分から書こうとしないとき。特に内容が好きじゃないとき。それから、ブログとかで、新しく面白いコンテンツをアーティクルで書きたいとき。その二つの書くの意味について考えたいと思ってる。

どうして書くことが苦手なのか、確かなことは二つある。まず、何を書いていいか、作文をするためにどのように考えればいいか分からない。言いたいことがはっきりしていないからだ。このプロジェクトのみなさんと一緒に掲示板で話したり、考えたりすることで、言いたいことが見つかって助かった。でも、何を言うか分かっても、みなさんの言ったことを纏めること、要約することがどうしても苦手だ。それから、書くときは目的がある。考えや気持ちを伝えたくて書こうとする。でも母語でも、どんな言語でも、言葉の正しい使い方を使いたいと思っている。単語の量が足りなかったり、文法を間違えたりすることがよくあるものなので、外国語にするとその目的を達成することが難しくなると思う。

自分は、できる限り正しく、完璧にその言語のネイティブのように言葉を使いたいと思っている。言葉の使い方が分からないときやアイデアをどうやって口に出したらいいかと思うときはよくある。まだ素人の私は多分自分に厳しすぎるかもしれないが、そのせいで「まいいか」と思ってやめてしまう。



対話報告

本当はプロジェクトを始めてから以下の対話はもうしていたでも一人だけで足りるかと思って、友達の意見を聞きたくて、色々な対話をしたいと思った。

対話相手は友達のRさん。彼女は短大を卒業して、四年生大学の3年生から入って、卒業した。

今は二人の可愛い子供たちのままだが、彼女は大学に戻りたい時がよくあると言っている。そして、彼女のご両親はホテルの経営をなさっていて、彼女はたまに実家に戻ってお手伝いしていたりする。

対話

M：早稲田のレポート、読んでどう思う？Rさんは書くのが好き？

R：私も大嫌いだったよ！でも、今は嫌いじゃないよ 書きたいテーマがあるなら、書きたいと思う

M：何で嫌だったか分かる？先生や誰かに書かされて嫌になったのか？それとも苦手だった？今は嫌いじゃないのは、何かあった？前と何が違う？

R：書くのが苦手だった 何を書きたいか分からなかったし、自分の気持ちが分からないから、文章にできなかった。今は、自分の気持ちをうまく表現できるようになったから、書くのは嫌いじゃない。うまく書けたら嬉しいしきっかけは、ホテルのネットで売るプランを作っていたことかな！どういうキーワードが、ホテルの魅力をうまく伝えて、お客様に来てもらうかを考えてたからだと思う。そしたら、PCに向かってなくても、いつもそういうキーワードを探すようになったんだよね。

M：自分の気持ちが分からなかったって、言いたいことが分からなかったってこと？どの内容でも同じ？

R：気持ちって、”あること”が起きた時に、自分がどう感じるかってことでしょ。だから、自分がどういう気持ちになったのかわからなかった気がする。例えば、映画を見て感動したっていう気持ちはわかるけど、その理由とか、どういうところに自分が感動したのか分からなかった。今なら、このシーンの主人公の気持ちが、「きっとこういう気持ちなんだろうな」って思って、でも例えば自分の気持ちを押し殺したリアクションをしたりする。そしたら、「きっと辛いだろうに、すごいな。えらいな。」とか、自分がその立場だったら

どうするかってことを、簡単に想像することができるから、気持ちが投影しやすい。そしたら、その時の主人公の気持ちと、自分の気持ちを比べたりして、たぶんそれだけで文章を書けると思う。昔は違ったよ。中学生の時に、TITANIC が大好きな友達がいて、一緒に映画を見に行ったよ。その友達は、もう6回目だったんだけど、私は初めて見て、確かに感動したけど、泣くほどじゃなかった。でも、その友達は、ハンカチがびしょびしょになるほど泣いてた。私には一回見れば十分だったけど、その友達は何回も見たいっていった。その時だったら、きっと私にも書けなかったと思う。

M：キーワードはどうやって探す？

R：普段の生活のなかで、旅行にでかけたって思うときは、心理学的には、非日常の空間に行きたいときなんだよね。だから、非日常を求めて旅行するお客さんの、その欲求を、実際に旅行に行きたい。ここに行ってみたって思ってもらうには、きれいな言葉で、お客さんの気持ちを「非日常的な空間がここにあった！」って思わせるような言葉を、いつも探してる。例えば、「おいしい食事」だったらどこにでもある言葉だけど、「暖炉(だんろ)の燃える温かなレストランでの至福のひととき」みたいに、ちょっとかっこつけてみるの。ちょっと難しいかもしれないけど、私は、そういう言葉を大切にしているんだよね。そして、そういう言葉を受け取ってくれるお客さんに来てほしい。自分が来てほしいお客さんを、自分の言葉で選ぶこともできるんだよ。

M：それから、書くってなんだろう？宣伝とかをするための書く？ 作文とか小論文は多分もうしないけど、学校にいたときにはまだ好きじゃなかった？今はレポートとか書かされたらどう思う？



R：高校3年の時に、苦手をなくしたくて、小論文の授業をとったよ。その授業で書く練習をして、短大の時は、毎日すごい量のレポートを書かされた。英語の授業があつて、毎日いろんな授業で、いろんなレポートを書かなきゃいけなくて、その時に、書けるようになったかな？今は、レポート書くのは、そんなに嫌じゃないと思う。勉強したいし、久しぶりだから！！

コメント

Rさんにとっては、書くのが嫌いではない、むしろ好きみたい。「書きたいテーマがあるなら、書きたいと思う」、「うまく書けたら嬉しい」と言っている。書くのが苦手だった彼女が、その苦手をなくしたくて授業をとった。それで、自分の気持ちを理解するようになったから、うまく書けるようになって、好きになったかなと思う。

今は小論文をするときに、テーマについてキーワードを探すと言ってる。
ご両親のホテルのプランを作ったとき、お客様の欲求を含めてキーワードを探す。
そのキーワードはテーマに対しての気持ちであろうかなと思う。



結論

私にとって、早稲田プロジェクトと「書くの嫌」というテーマは関係があるので、

「おわりに」は「結論」と繋がりがある。だから、「おわりに」は「結論」を一緒に書きたいと思う。

このプロジェクトの途中で、何度も諦めようとした。やはり書くの嫌だ。私は、普段は、好きじゃないことをするとしたら、やる気があまり出ないので、誰かの応援がないとだめ。学校や仕事なら仕方ないのだが、もう自分からはそういうことはしないと決めた。そういうこととは、「書くこと」だ。つまり、内容が好きではなかったり、特に私には重要だと思わなかったりする場合には、もう自分から書くことはと決めた。

でもこのプロジェクトを通して、たくさん書いて、考えて、対話をして、自分をもっと知ることができたと思う。

元々書くことが苦手で、自分の考えを文章にあまりできなくて、纏めること、要約することもよくできない。いつも完璧に書こうとしている私には、外国語を使って、「この文章でどの言葉がいいかな」、「この言い方正しいのか」ということを、いつも考えてしまい悔しかった。日本語で小論文を書くのなら日本語能力がまだ全然足りない。

最後に、気づいたのは、他の人に見せる予定があるなら、表現することは、私にはますます難しくなる。日記みたいなものなら、同じく、少ない量で書いても大丈夫だけど、逆に他の人に見せるようなものだったら、恥ずしい気持ちが出てきて、見せない方がいいと思うようになる。



後書き

ルヴェイラン・ティフェンヌ

「このプロジェクトのおかげで、コロンブスの皆さんはいろいろな発見をしました。そして、皆は一緒に話し合っ、この発見についてよく考えました。他の人と意見を交換するのは本当におもしろくて、必要だと思います。そうすると、本気で成長することができると思います。私はこの冊子を読むと、読者も新しい考え方をたくさん発見するのを期待します。新しい考え方を発見して、自分の考え方を広げて、そしてもう一度他の考え方を発見するのはもっといい大人になることだと信じます。」

ユハット・ヤシン

「日本語で考えることができるかどうか全然わからないが、いい経験かもしれないと思いました。しかし、このプロジェクトを始めるとすぐに面白くなったようです。日本語を使って、自分の意見を伝えられるし、日本人に助けてもらいました。その上、「考えるための日本語」は今まで、日本語の一番有益な練習になると思います。早稲田大学の皆様、ありがとうございました。皆さんの参加した人 たち、お疲れ様でした。」

カレフ・アキム

このプログラムが始まった時、3ヶ月はちょっと長いと思った。しかし、いろいろな人とやりとりして、時の経つのは早かった。それで、他人と話をする際には、相手がどのような立場で、どのような考えを持っているのかを理解でき、話も弾むんだ。実際のところ、3ヶ月は非常に短かった。意見や考えを話し合えて、とても充実した時間をすごせたように感じている。このプログラムのおかげで自分の視野を広げることができ、自分のことをもっと知るようになった。

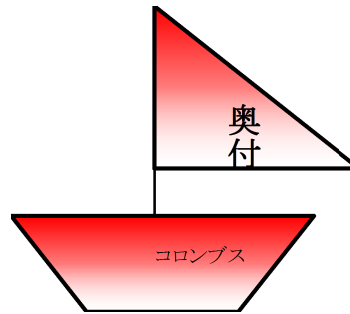
モラビト・エロディ

「このプロジェクトを始めたとき、私はこのようなすばらしい経験をできるとは思っていなかった。皆さんと一緒に「目標」や「自分の文化」などについて話して、私たちは自分の人生や将来や目標などを作るために、いい経験、それとも失敗と悪い経験は必要なことだと言った。私もコロンブスのグループのおかげで、自分の目標についてもっと考えることができ、自分や他人についてもたくさんの発見をして、このプロジェクトは自分の人生を歩くために大切な経験になった。」

ビュケ・マキシム

「書くことが好きではない人が、「書くの嫌」というテーマについて書こうとしたら、なかなか大変だ。でも、メンターのみなさんと掲示板で話をしたり、ワークショップで話し合ったりすることがとても楽しかった。日本語でお話ができ、本当に嬉しかった。色々とありがとうございました。」





★ルヴィラン・ティフェヌ

「どうして人々は外国語を勉強するか。
理由は「他」の魅力を感じるからだと思
う。」

★モラビト・エロディ

「「ことば」は私にとって大切なものを表
すと思うようになった。でも、言葉よりも
もっと大切なものを発見した。それは
「音色」の力である。」

考えるための日本語のプロジェクト

早稲田大学とリール第三大学

私と日本



『人生を歩くために必要な発見』



2012年01月23日~ 2012年03月11日

コロンブスグループ

メンバー: ヤシンさん、マキシムさん、アキムさん、ティフェヌさん、エロディさん

メンター: 山内さん、古屋さん

表紙: アキムさん

挿絵: ティフェヌさん

★ユハット・ヤシン

「自分の文化」を創るために大きな
ステップができた。」

★カレフ・アキム

「新しい環境に入ったら自分のアイ
デンティティが再認識」

★ビュケ・マキシム

「それから、書くときは目的がある。考
えや気持ちを伝えたくて書こうとす
る。」





人生を歩くために必要な発見



コロソブス

エモラビト. エロテ
 エユハット. ヤシン
 Ⅲルヴィラン ティフェンヌ
 Ⅳカレフ. アキム
 Ⅴビュケ. マキム
 Ⅵ山内. 薫
 Ⅶ古屋. 憲章
 コロンブス

